

十勝川中流部川づくりWS(第2回)

十勝川中流部WS検討あたって

平成22年10月29日

北海道開発局 帯広開発建設部

十勝川中流部WS検討にあたって

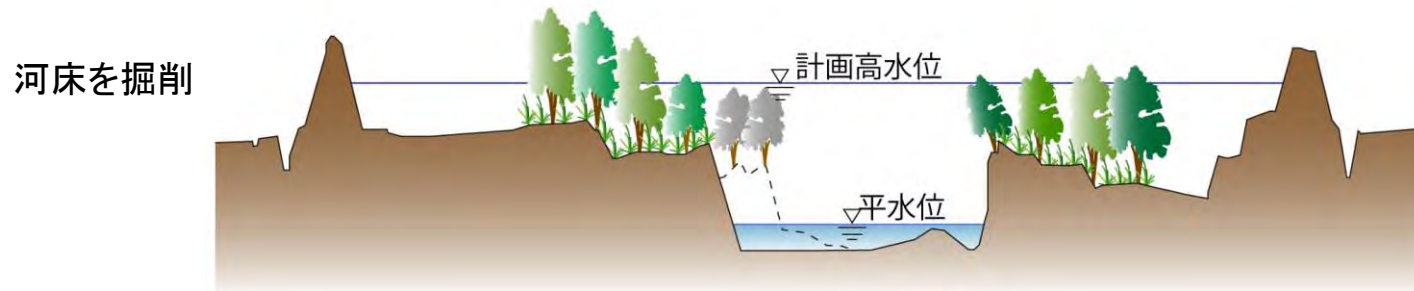
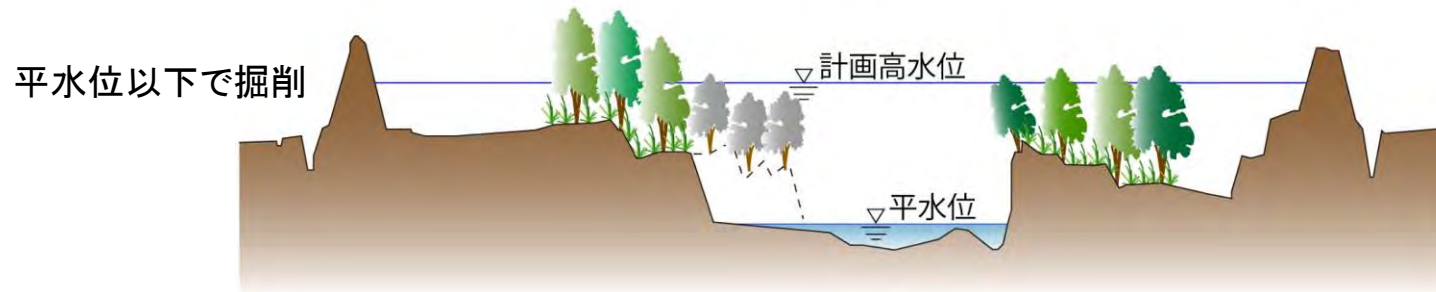
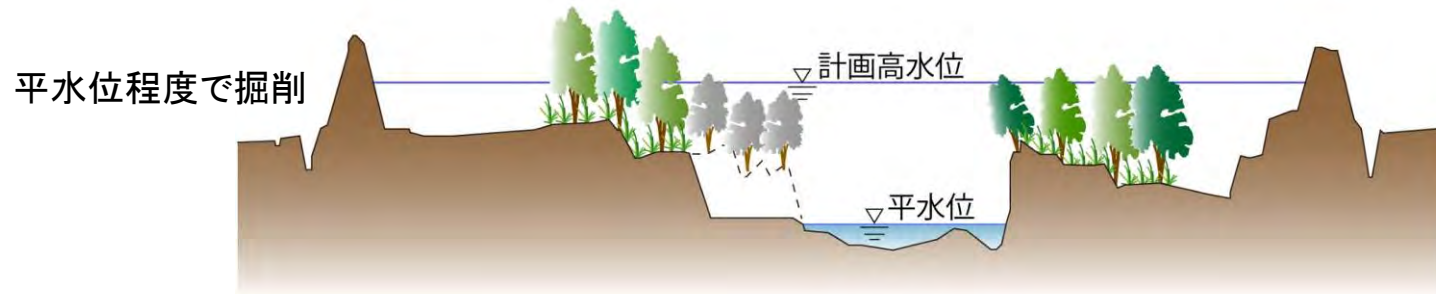
1. 十勝川中流部川づくり案のとりまとめにあたっての前提条件

1). 十勝川水系河川整備計画に基づく流下能力を確保するために、川の流下断面を広げる。

(目標流量: $4300\text{m}^3/\text{sec}$ ~ $6800\text{m}^3/\text{sec}$)

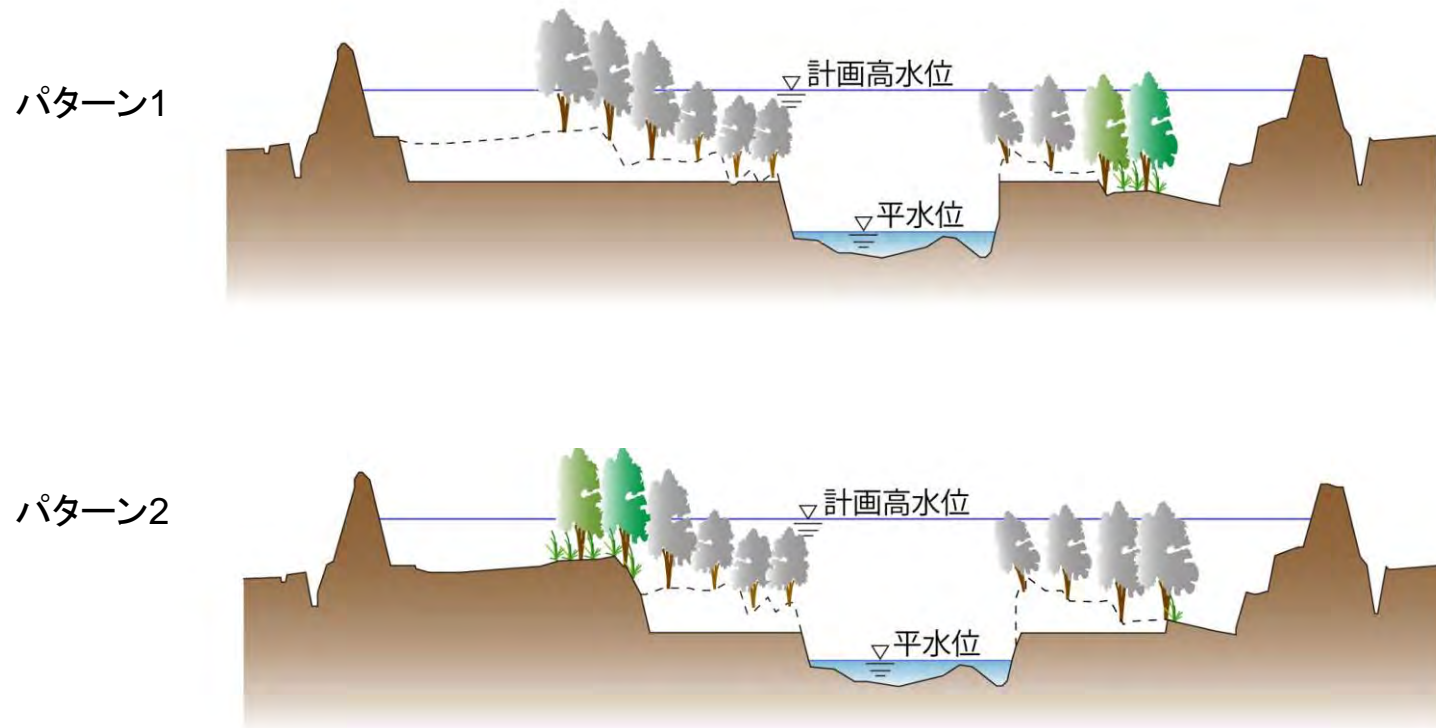
流下断面を広げる際の選択肢

A. 低水路の掘削(拡幅等)



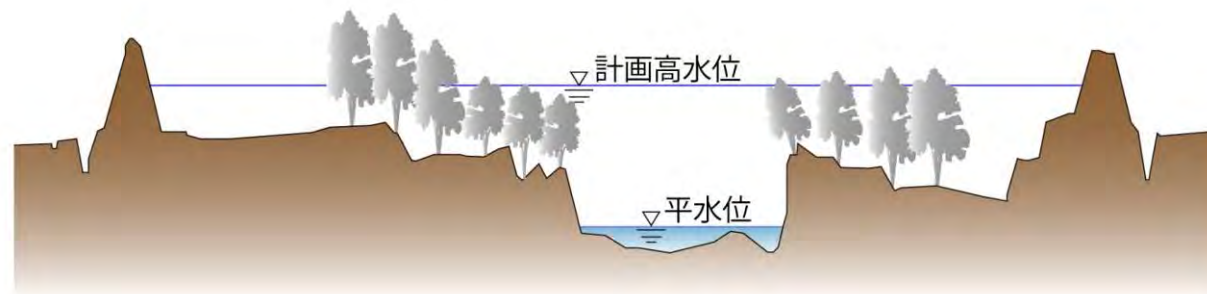
流下断面を広げる際の選択肢

B. 高水敷等の掘削



流下断面を広げる際の選択肢

C.河道内樹木の伐採



2). 将来的な維持管理も考慮

多くの維持管理が必要となるケースの事例

- A. 上下流部と比較して、低水路幅を広げすぎると、かえって土砂堆積を促すことになり、河道掘削等の維持管理が継続的に必要となる。
- B. 冠水頻度の低い高さ(平時の水面に比べて高い位置)で掘削した場合、その後、ヤナギ等が繁茂し維持的な伐採が継続的に必要になる。
- C. 単に樹木を伐採(根などを残したままなど)した場合には、数年で繁茂することにより継続的な維持管理伐採等が必要になる。

十勝川中流部WS検討にあたって

2.前提条件を満足した上で自然環境や河川利用の面から、望ましい川づくり案を取りまとめる。

1).自然環境面

- 多様な動植物の生息・生育・繁殖の場となっている、河畔林、草原、変化に富んだ流れを形成する水際、瀬・淵、礫河原など.
- 魚類等の生息・繁殖など.
- 十勝らしい河川景観の形成.

2).河川利用面

○人々が川や水辺とふれあい親しめる場



カヌーによる川下り

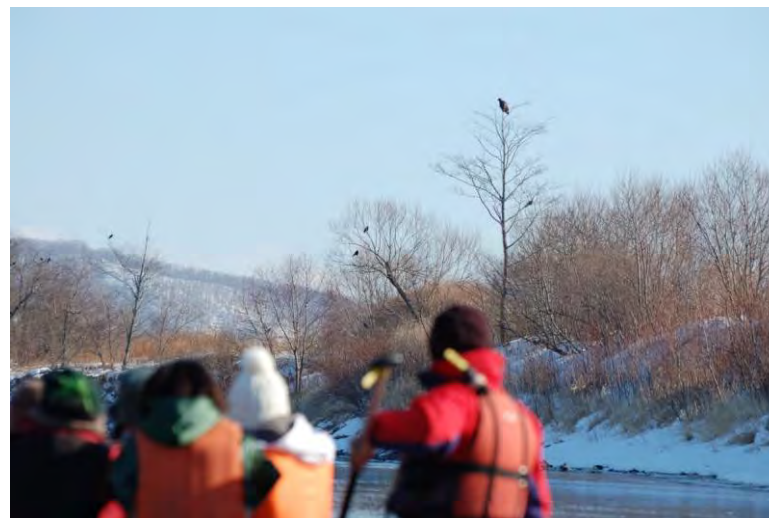


川あそび

○河川環境の整備と保全、十勝エコロジーパークの活用等、
観光に配慮した河川整備



ラフトによる川下り体験
(ネイチャーセンター)



ワシクルーズ
(ネイチャーセンター)

今後のスケジュール(案)

- 第2回WS H22 10月29日
 - 基本的な川づくりへの意見集約
- 第3回WS H22 11月末頃
 - 第2回の意見を受けて川づくりイメージ
 - 課題の整理
- 第4回WS H23 1月中旬頃
 - 川づくり原案(複数案)提示
 - 順応的管理について(対象、モニタリングなど)
- 第5回WS H23 2月下旬頃
 - 川づくり原案への論点整理
 - 順応的管理のありかた
 - 来年度の方向確認